

技術・データを事業機会につなげるAI創発ツールの開発

丸居 安里

背景・課題

研究開発で生まれた新規技術・独自データは、活用先が自部門など特定の領域に閉じやすい。

技術と事業側の課題を結びつける仕組みがないと、独自技術・データを元にした価値提供の機会を逃す可能性がある。

手法・ツールの適用による解決

技術情報から活用先・提供価値候補を生成するAI創発ツールを開発した。
提案ツールは、観測対象・影響因子・隣接データ・ステークホルダーを段階的に整理し、AIの発想過程を技術起点から事業接点へ広げる。その結果、事業側の課題やデータと結びつく価値提供候補を提示できる。

提案手法

- ・技術情報を入力すると、下記に示す創発プロセスを組み込んだ手順に沿って、提供価値及び提供先のステークホルダーを提案する。
- ・また、提案までの思考過程をナレッジグラフの形式で可視化できる。

AI支援ツールの創発プロセス（提案手法）



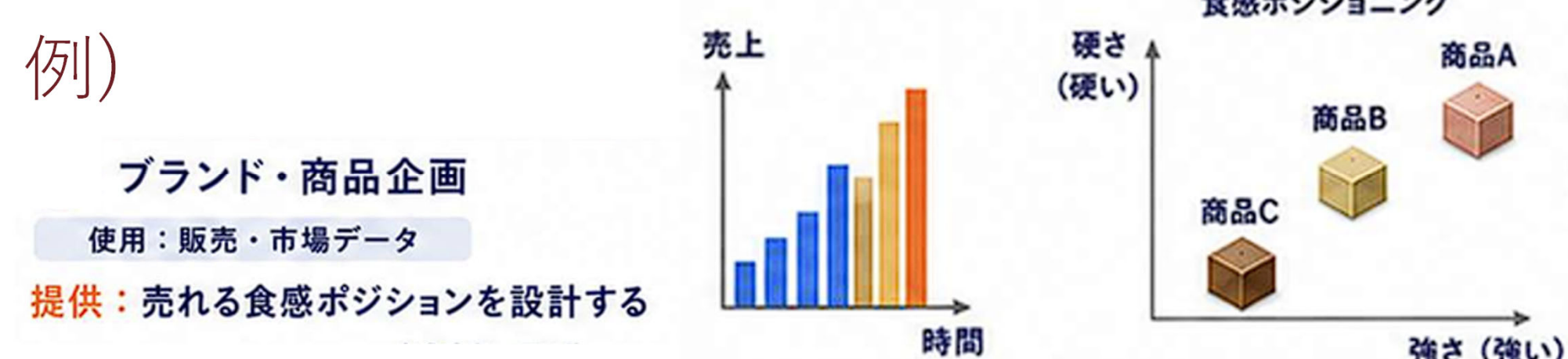
実行環境



評価方法・評価結果

①中間プロセスを設けない通常法との比較

隣接する事業側に踏み込んだ価値提案の傾向が見られた。



②ヒトでの創発と比較

アイデアの数と提案ステークホルダー数の幅が広がった。

アイデア候補数
4.5件 → 18.5件 4.1倍
ステークホルダー候補数
4.0件 → 8.5群 2.1倍

まとめ・今後

AIは「広く網羅的」に、ヒトは「体験から飛躍的に」発想する傾向 ⇒活用先を広げる「探索支援」およびナレッジグラフを活用した人間の発想プロセスを汎化するツールへの発展性が考えられる。

